

7月2日の火球、習志野隕石(仮)

多くの定点観測ビデオカメラによって撮影された火球は、分析の結果、神奈川県の上空85kmで光り始め、東京の上空を通過、千葉県沖の上空23kmで発光終了。落下予想範囲内で「隕石」として発見されました。今回発見されたのは落下した隕石の一部とのこと。



火球 写真提供 藤井 大地(平塚市博物館)



60 70 80 90 100 110 120

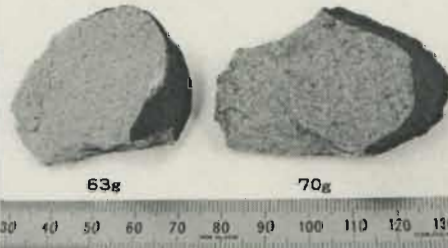
←習志野隕石(仮) ↑
写真提供 国立科学博物館

(下記範囲内にまだ、眠っている可能性あります!)



7月2日発見 3日に回収

7月4日発見回収

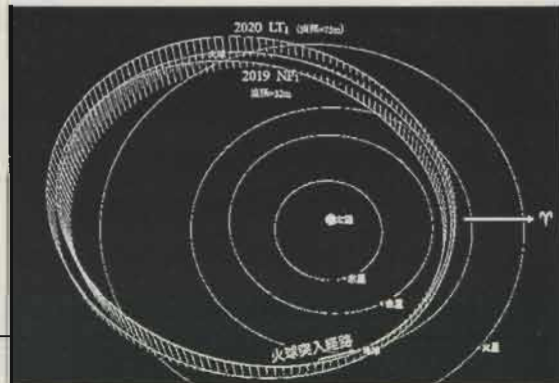


7月4日に発見された隕石の半分(右側)の表面は、2日間雨に濡され、赤茶けて錆びついてみえる。

地上に落下した時、2つに割れたが、大きさは約5cm程度。ニワトリの卵サイズよりひと回り大きい。卵サイズの重さは約50~60g。隕石は鉄を含み、密度が高いため、卵1個分で約2倍以上の重さ。かなり重い。

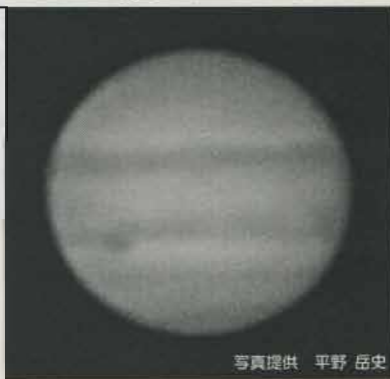
この隕石は国立科学博物館で分析した結果、宇宙線により生成する放射性核種のアルミニウム-26(半減期約70万年)、ナトリウム-22(半減期約2.6年)等を検出したことにより「隕石である」ことが確定しました。今回は、多数の地点で観測されていたことから、隕石の軌道が計算され、その予測に基づき落下推定地域で隕石が回収されました。これは国内初のことです。さらに、隕石の経路から、隕石の元となった母天体の推定も行われています。現在、可能性のある天体は3つ。地球軌道の内側まで入ってくる小惑星のグループの2020 LT1(直径75m)、2008 WH96、2019 NP1(直径35m)が挙げられていますが、まだ確定はしていません。今後は楽しみです!

流星観測のチームが成し遂げた快挙です。



落下可能性のある地域の地図と小惑星の軌道(右) 提供: SonotaCo Network

宵の空の木星 ガリレオ衛星を見よう!



双眼鏡でも見る
ことができます。

2020年8月25日 20:00
木星の衛星の位置

観望: ステラナビゲーターVer.11/
観望: アストロアーツ/楽アシキ

写真提供 平野 岳史



しろいメール配信サービスに登録しましょう!

- ◎文化センターイベント情報 ◎コンサート情報
- ◎イベント講座情報 イベントの前にメールが届きます。



ネオワイス彗星

写真提供 柿沼 史規

多くの写真がSNS上で投稿されています。久しぶりに晴れた7月19日(日)に撮影。白井付近では双眼鏡で確認できました。今度、太陽に近づくのは、5000年後!と予測されています。

① ちやうど ② わり ③ は ④ ちやうど ⑤ 5000 ⑥ 年後 ⑦ ! ⑧ と ⑨ 予 ⑩ 測 ⑪ され ⑫ て ⑬ い ⑭ ま ⑮ す ⑯ 。